JR教育大前駅から山頂まで約1時間、気軽に登れる山。

城山は公共交通機関のアクセスが良い。JR教育大前駅から教育大登山口まで徒歩約15分。そこから山頂までは30〜40分程度。往復でも2時間程度と気軽に登れるのが魅力だ。駅の隣には西鉄バス赤間営業所もあり、車に乗らない人にとっても電車やバスで楽しめる。駅の前の道を下って行くと数分で赤馬館や赤間宿通りに。帰りの際など休憩に利用してもらえたら。

城山登山道の看板。教育大登山口のほかに、三郎丸側登山口もある。低山と言えど、迷わないようにみんなでルートを確認。

登山口にある東屋にて。登山口に設置している登山マップには宗像の登山情報が記載されている。

Fujama 城山

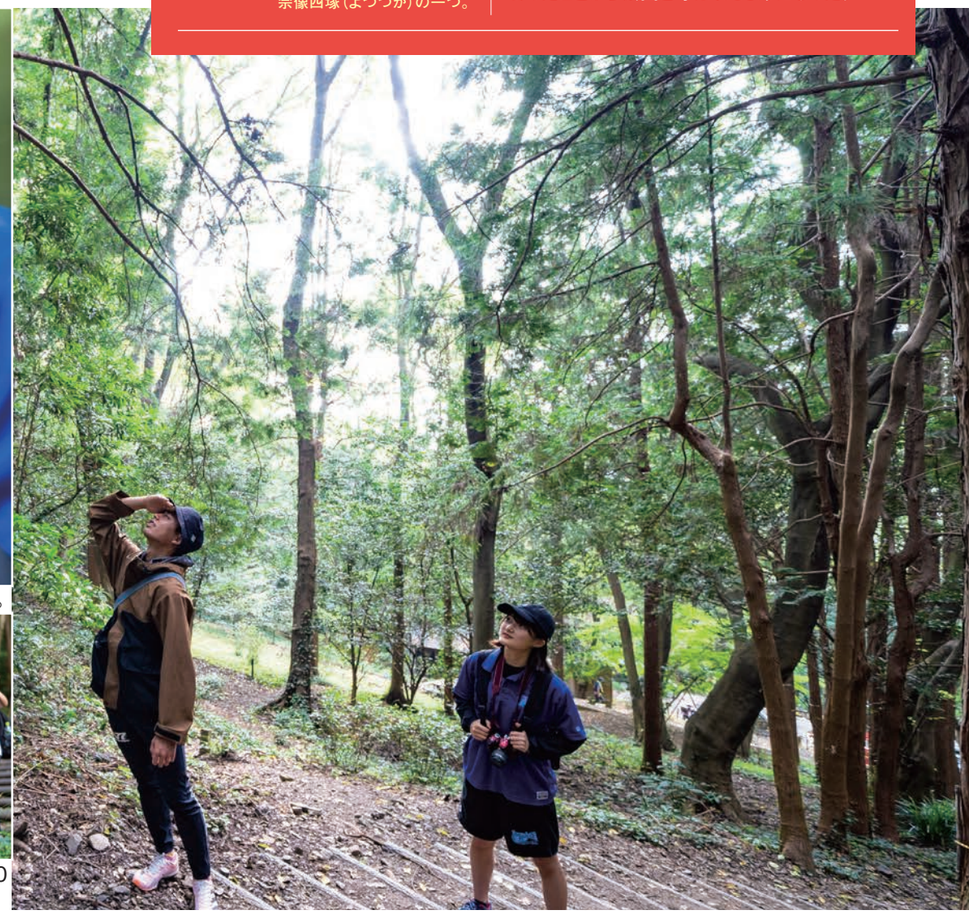
There 低山散策

About 城山は標高369m。赤間・赤間西地区、そして岡垣町を跨る場所に位置し、湯川山、孔大寺山、金山と鐘崎漁港まで連なる宗像四塚（よつづか）の一つ。

宗像は東、西、南側と三方を山に囲まれ、玄界灘に面する北側に向かって平野が開けていく地形。そういった形状からか、山城がいくつか存在していた。今回はその一つ城山（じょうやま）を紹介。福岡教育大学の背後に雄々しくそびえ立ち、かつて山頂に宗像大宮司の城があったことから城山と呼ばれるようになった。

登山口付近のキレイに整備された階段。すれ違う登山者には挨拶を。

山を登るだけではない、四季折々の草花や植物が見られるのも城山の魅力。



休憩中にスマホでパシャリ。自然を撮るのも良し、仲間との記念撮影を撮るも良し。適度な休憩と水分補給も忘れずに。

キノコを発見。キノコ狩りができる山は決まっているので、城山では持ち帰らず鑑賞のみ。

登山口階段付近に1010mの文字。30〜40分で登れるほどよい山。

キャッスル・オン・ザ・ヒル

JR教育大前駅の改札を抜けて北側に目を向けると建物が立ち並ぶその先に高くそびえ立つ山が見える。かつて山頂に城があったとされる「城山」だ。国道3号線からも見える城山は市街地にあり、宗像の誰しもが知っている山と言っても過言ではない。ワクチンが普及しつつもまだまだ新型コロナウイルスの影響があるなか、密を避けてなまった身体に刺激を与えるため標高369m、登山距離約1kmとビギナーには丁度いい、自然豊かな城山に登りに来た。

毎年のべ23，000人以上もの人々が登頂していて、なかには一日4〜5回登るツワモノもいるのだそう。山頂でフォークダンスを仲間と踊ったり、早朝にラジオ体操する人々がいるなど、様々な人々から愛されている山だ。それも偏に「城山を守る会」が毎月2回定期的に集まり、登山道の整備や山頂の草刈りなどを行ってくれているからだ。山開きも彼らが行っており、毎年4月29日に開催。安全祈願やぜんざいの無料配布が行われ、例年500人の人が登山口に集う。

サークル・オブ・ライフ

多くの人々を魅了する城山には様々な草花や樹木などが生息している。山頂では記帳ノートのある小屋に城山で見られる野草やキノコの写真が飾られている。これらは登山者から寄贈されたものだ。これらを眺めていると豊かな山の恩恵により生命の循環が行われていることを感じる。写真からは植物のサイズが分かりづらいが実物は非常に小さい。何度も城山登山を楽しむ愛好家が日々、生息ポイントを探索しながら撮ったものなのだろう。城山ビギナーの私達ではすぐに見つけるのは難しいかもしれないが、途中休憩の際にでも足元の世界に目を落として注意深く見ると発見があるかもしれない。

海の見える街

カメラを首から下げて家族や仲間との登山風景を楽しんだり、ファインダー越しに覗く普段見慣れない世界を体験したり、山頂ではダンスを踊る人々がいたり。城山は様々な人を受け入れている。また、山頂からは玄界灘を臨み、天候によっては沖ノ島が見える日もある。往来ではあえて頂上からの写真は載せなかった。青い空、青い海、神宿る島。宗像は海の見える街、山のある街。楽しみは、自らの足で赴いて見て欲しい。